

チャペル週報

どうか主が民に力をお与えになるように。
主が民を祝福して平和をお与えになるように。
(詩編29:11)



秋季宗教運動特集号
2007.10.15～10.19 No.15
関西学院宗教センター

チャペル・スケジュール

時間 10:35 ~ 11:05 場所 各学部チャペル

10月15日(月)ランバスチャペルアワー

「つまずく時この聖書箇所」学生によるチャペル

於：中央講堂

10月16日(火)学部合同チャペル(西宮上ヶ原)

「インドネシア交流30周年報告」田淵 結(宗教主事)

於：中央講堂

総 本 田 盛 (総合政策学部教授)

10月17日(水)学部合同チャペル(西宮上ヶ原)宣教師によるEnglish Chapel

「できること」Julia碧Thrasher(中学部教諭)

於：中央講堂

総 長 峯 純 一 (総合政策学部教授)

理 松 木 真 一 (宗教主事)

10月18日(木)大学合同チャペル(西宮上ヶ原) 10:20~11:20

「I Have a Dream - 学生たちからのメッセージ」

上ヶ原ハピタット、宗教総部、K.G.Brain Humanity

於：中央講堂

大学合同チャペル(神戸三田) 10:20~11:20

「最も小さい者こそ」渡辺総一(画家)

於：号館201号教室

10月19日(金)大学合同チャペル(西宮上ヶ原) 10:20~11:20

「最も小さい者こそ」渡辺総一(画家)

於：中央講堂

大学合同チャペル(神戸三田) 10:20~11:20

「平和の樹立」今泉信宏(総合政策学部教授・宗教主事)

於：理工学部チャペル

ランバス早天祈祷会 午前8:20~8:40

於：ランバス記念礼拝堂

10月18日(木)秋季宗教運動のために

中 澤 清

10月19日(金)秋季宗教運動のために

森 田 雅 也

総合政策学部早天祈祷会 毎木曜日 午前8:40~

於：宗教主事室

秋季宗教運動・大学キリスト教週間への招き - 悩んで疲れていませんか -

新 谷 陽 介

10年前、私はハタチの大学生だった。若さを謳歌しつつも、色々な悩みを持っていた。誠実で堅実なクリスチャンとしての生き方を追求するがくじけてばかり。人に対する親切心や寛容さの一欠けりも持ち合わせていない。強がって自分を立派に見せようとするが、ホントは何もできない弱くてみじめな者であることを思い知ったのもその頃である。そんな時、聖書のパウロの言葉に出会った。

「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」
(ガラテヤの信徒への手紙 2:19-20)

善いことをやりたくても、やることはその反対ばかり。自分から出るものは、ねたみやそねみ、自己憐憫や高慢。それをがんばって封じ込めてもどこからかむくむくと湧き出てくる。結局自分の力ではどうにもならないと悟ったとき、こんなつまらない自分の内でキリストが生きてくださっているという聖書の言葉に、感動と感謝の涙が溢れてやまなかった。キリストは、嫌で嫌でたまらなかつた醜い私を、2000年前のあの十字架刑で共に葬ってくださり、さらに私を新しくしてくださっていたのだ(コリ5:17)。それまで重要だと思って自分の手で力いっぱい握り締めていたものが、実はなんてことない、それも主が解決して下さることだと考えられるようになった。

あなたも何らかの悩みを持っているだろう。それは親、兄弟、友人、恋人といった人間関係であったり、勉学であったりするだろう。社会人になれば仕事上での悩みが尽きることはない。けれども主はそこに希望の光を当ててくださる。それは自分が考えるような解決方法ではないかもしれない。自我を砕かれるという痛みを経験するかもしれない。時間がかかるかもしれない。しかし、解決は必ず与えられる。あなたの内から癒しと恵みの河が流れ出る、と主は語ってくださっている(ヨハ7:38)。主は「私のところに来て休みなさい」(マタ11:28)とあなたを優しく抱きしめるだろう。

この大学キリスト教週間で、クリスチャンであってもそうでなくても、私も含めてみなさんの多くが主を発見・再発見し、癒しを経験するきっかけとなることを祈っています。

総務部(学部等事務統合プロジェクト担当)

最も小さい者こそ

渡 辺 総 一

このたび「平和への祈り」と題し、関西学院でキリスト教美術の個展を開催していただき、心より感謝いたします。拙い絵ですが、皆様に見ただけですごすことを喜んでおります。

この主題に沿った作品をこれまで描いた中から20点ほど選び、また今年描いた作品「子供たちをわたしのところに来させなさい」を加えました。それは、イエス様が子供たちを祝福されることは、平和への祈りにつながる教えを含んでいると思えたからです。ところが、実際この絵の制作上で明らかになりましたのは、わたし自身がイエス様の教えと正反対の考えに立っていたということでした。

マルコの福音書(10:13-16)によりますと、人々が子供たちをイエス様のところへ連れてきて祝福していただくとうしますが、弟子たちはその人々を叱りました。イエス様はこれを見て憤り、弟子たちに言われました、「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。だから子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない」と。そして子供たちを抱き上げて、手を置いて祝福されました。ルカ福音書では乳飲み子を連れてきたと記されてありますので、16世紀のクラナツハの描いた絵では、母親達が赤ちゃんを抱きかかえて、イエス様を囲んでおります。わたしも、母親と赤ちゃんや子供たちを祝福するイエス様の様子を、この2年ほどの間に小さい絵で2枚ほど描きました。そして今回は新たに弟子たちも入れた構図で描こうとしたのですが、絵の中心は従来どおりイエス様と母親と子供たちと考えました。人々を叱る弟子たちは、一人の弟子に代表させ、右端に寄せて描きました。母親と子供たちを排除しようとする弟子たちは、子供たちを取るに足らない者であるとし、これらの人々がイエス様近くに来ることは先生の働きの妨げになると考えたのかもかもしれません。

この絵を描こうとしたもう一つのきっかけは、アメリカ軍によるバグダットの空爆の映像を見たことでした。瓦礫の中から救い出された子供たちや老人、婦人たちが血を流して苦しんでおり、戦争はこのような小さい者たちが傷つくのだと知らされました。それで叱る弟子たちの言動を刺々しい形と色で表現しました。構図の上ではこれで一つのまとまりをつけようと思いましたが、何日かかって色の調和がうまく生かませんでした。4月から準備を始め8月半ばまでかかり、一応の仕上げといたしました。

一つ峠を越すことができたのは、絵の中心が、イエス様と子供たちよりもむしろイエス様と弟子たちの物語、いやそれどころかイエス様とわたし自身であることに気がついたからでした。弟子たちの考えは、わたしを含むこの世の一般的な考えを代表しているように見えました。しかし、イエス様の考えはそれに反対します。子供たちのような最も小さい者たちこそ、神の国にふさわしいのだ、と言われるのです。

絵の中ではイエス様の手と心は、子供たちを祝福していますが、それと同時に弟子たちに向かい強く論じておられるのです。神様は誤っているわたしを切り捨てずに、わたしを小さな者たちのようになり、また小さい者たちに仕えることを教えてくださっていることを覚え、感謝いたしました。

(画家)

平和と正義

今 泉 信 宏

この夏久しぶりに広島に行く機会がありました。平和記念公園を歩き、原爆資料館へも足を運びしばらく様々な資料を見ながら平和とは何かということを考えました。原爆ドーム前で多くの女子学生たちが「peace sign」をしてにこにこ顔で写真を撮っていました。現在の日本では年中行事の一環として平和宣言をしています。小学生も宣誓をしたりしていました。これも大切なことです。戦争を二度と起こさないというコミットメントを年に一度だけではなく、毎日の生活の場で自己中心主義に落ちることなく他の人や国のことを思いやることも平和につながるのです。通常我々の多くは平和を単独的に考えがちですが、実は平和は正義と対で考える必要があります。豊かな国が貧しい国や国民を搾取している。フィリピン産のパイナップルひとつにしても、あるいはパンの一切れであっても、その工程で多くの者が搾取されているという現実に眼をつぶってはならない。讚美歌424番(21)に以下の言葉が記されています。「むさぼりの心が正義を踏みじり、貧しい人々の大地を取り上げる。よろこびの歌声涙に変わり果て、緑のこの土地は灰色に変わる。種まく者が飢え、刈り取る者が瘡せ、つむぐ者が震え、むさぼる者が富む。ためいきの大地を神は見過ごさない。この大地すべてはみんなのもちもの。」これは私がエコハピタットの学生を毎年連れて行くフィリピンのDumagueteでつくられたものです。この言葉を聞いて皆はどう思いますか？世界平和を祈る前に、己の自己中心性を少しでも変えなければ「平和」の樹立は不可能でしょう。しかし私を含めて人間はみな自己中心的です。人よりも豊かになりたい、人よりも更により生活をしたいという願望や欲望はだれにもあります。それがあつ限り世界平和はありえない。でもあきらめてしまうのではなく、この私にできることがあるのかどうかを模索していく努力が大切ではないでしょうか。上の言葉を聞き流してしまうのではなく、内面化するために自分は何をなすべきか。これが求められているのです。この機会に共に平和と正義を考えてみようではありませんか。

(総合政策学部 宗教主事)

渡辺総一絵画展

「福音と世界」(新教出版社)の表紙絵などで著名な渡辺総一氏の絵画展。イエス・キリストの生誕から受難と復活まで聖書に基づく様々な場面など約20点を展示。この絵画展が聖書に触れるきっかけとなることを願っています。

と き：10月15日(月)正午～19日(金)16:00

ところ：西宮上ヶ原キャンパス 吉岡記念館ラウンジ

主 催：宗教活動委員会

問い合わせ：吉岡記念館事務室宗教センター(0798-54-6018)

渡辺総一(わたなべ そういち)氏プロフィール

1949年宮城県に生まれる。1972年東北学院大学を経て1982年に御茶の水美術学院を卒業。個展 1993年油彩展「イエスとの出会い」(東京銀座、日辰画廊)、2001年パステル・油彩画展「希望の手紙 黙示録」(東京銀座、教文館エイン・カレム)及びグループ展1993年～2005年「キリスト教美術展」、1998年アジア・キリスト教美術展(インドネシア・バリ)、2000年聖書能公演と同時展示(スイス・ジュネーブ、ドイツ・ハノーバー)等多数開催。また、数々の本の表紙画及び雑誌『婦人之友』『信徒の友』にカットを連載。特に『福音と世界』の表紙画は現在も連載中。

KSCチャペルオルガニストによる "Autumn Concert"

神戸三田キャンパスのランバス記念礼拝堂のパイプオルガンで、KSCチャペルオルガニストが得意曲を演奏します。お誘いあわせの上、ご来場ください。

と き：10月16日(火)12:45～13:25

ところ：ランバス記念礼拝堂(神戸三田)

CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

大阪梅田キャンパスチャペルアワー

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローチタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、授業期間中の毎月第2水曜・第4金曜にチャペルアワーを開催しています。

10/26(金)18:00～18:20 1405教室

【メッセージ】水曜日 樋口 進(宗教センター宗教主事)

金曜日 田淵 結(大学宗教主事)

関西学院会館の日曜礼拝

毎月第二・第四日曜日(午前10時～11時)関西学院会館ベーツチャペルで教職員・学生有志による礼拝が行われます。一部英語を用いるバイリンガルの形式。どなたでも参加出来ますのでどうぞお越しください。

10月28日